



世界の光通信を支える 小さな大企業

株式会社グラノプト



品質保証グループ 副主任
中川 悟
Satoru Nakagawa

株式会社グラノプト

〒016-0122
秋田県能代市扇田字扇田4-4
TEL.0185-70-1800
FAX.0185-70-1803
URL <http://www.granopt.jp/>

【会社概要】

光通信の信号を制御する光アイソレーターの部品として使用される「ファラデーローテータ」の製造・販売を行う。住友金属鉱山株式会社(SMM)と三菱ガス化学株式会社(MGC)それぞれで行っていた事業の統合により設立され、ファラデーローテータの世界シェアNo.1を誇る。

創業年:2005年
従業員数:75人



A

「小さくても世界No.1エクセレントカンパニーを！」確かなものづくりを続け、30年後も社会貢献・地域貢献できる企業に。

小さくても世界屈指の製造業

能代工業団地に工場を構える株式会社グラノプトは、光通信に欠かせない「ファラデーローテータ」の製造・販売で世界No.1のシェアを誇る。もともと、住友金属鉱山(株)(SMM)と三菱ガス化学(株)(MGC)がそれぞれ行っていた事業を統合し、合併会社として2005年に設立。大手2社の統合により、世界シェアの半数以上を占めるNo.1企業となった。

ファラデーローテータは、Bi置換希土類鉄ガーネットからなる厚さ100～500 μ mの結晶でできており、光信号のノイズを除去する光アイソレーターの部品として使用される。光アイソレータは電話会社やインターネットプロバイダの基地局など、光信号の発信元となる設備に組み込まれる機器だ。近年、データ伝送の高速化や大容量化が進む光通信の分野において、光アイソレータは絶対不可欠な存在であり、その重要部品となるファラデーローテータの需要も世界的に増加傾向にある。

成長を支える飽くなき研究開発

入社11年目、能代市出身の中川氏は、グラノプトの技術開発を支える次世代のエースだ。入社以来一貫して生産効率を上げるための研究開発に取り組んでおり(※9月に異動)、現在の主力製品の組成は中川氏の考案によるものだ。「研究成果が実を結んだときは嬉しかった」と中川氏。自分で作り出したものが世界のインフラを支えるという、ものづく



B

A 世界シェアNo.1のファラデーローテータ
B 生産効率向上のため、日々研究開発が行われている

りの醍醐味が味わえる職場だ。

高い技術とシェアを誇るグラノプトであるが、常に順風満帆というわけではない。2006年、EUが発効したRoHS指令により、鉛や水銀などの有害化学物質を使用することが禁止された。ファラデーローテータは製造工程で鉛を使用するため、どうしても基準値を超える鉛が製品に残留する。これを基準値内に収めるべく、製造プロセスに関する研究が進められた。解決策を模索する過程で、SMMとMGCの技術を持っていたグラノプトは、2社の知見を融合させることで難題を解決。いち早くRoHS指令に準拠した製品を作り出すことに成功した。

需要の増加に対応するため、来年には生産ラインを増設する予定だが、目下の課題は製造に携わる技術者の確保。そして今後の目標は現行製品の生産の効率化と、ファラデーローテータ以外の柱となる事業の確立だ。既存技術に対して、それを超える新技術がいつどんな形で現れてくるかは分からない。しかしながら、それを創り出すための努力を続けることこそが、トップランナーとしての責務であり、リスク対策でもある。「世界に貢献しながら、30年後も会社が存続していくために、新たな事業を模索していきたい」と若きエンジニアは熱く語る。